活動資料

野外炊事(指導依頼可)

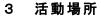
陸中海岸青少年の家

1 活動の概要

かまどで薪を使って火をおこし、工夫・協力しながら調理し、食事をする。

2 ねらい

- (1) 勤労意欲や創造性、責任感を高める。
- (2)協力、友愛など好ましい人間関係を育てる。
- (3) 火や刃物に対する安全や食の大切さについて学ぶ。



野外炊事棟(蛇口20個、かまど20個 ※屋根あり) 野外食事棟(固定式テーブル12台 ※約70人、屋根あり 移動式テーブル10台 ※約60人、屋根なし)



4 所要時間

(例) カレーライス 4 時間 焼きそば 3 時間 (準備から後片付けまで)

5 準備・服装

個 人	長袖・長ズボン (やけど防止)、軍手 (皮手袋)
団 体	グループ分け(1グループ6~8名程度が望ましい)
	ふきん(台拭きと食器拭きに使用するので、多めに準備 ※1人1枚目安)
	マッチ類、焚き付け用の新聞紙等、たわし・スポンジ、食器用洗剤
	クレンザー (火にかける鍋や飯盒に塗るため)、ゴミ袋 (必要に応じて)
青少年の家	食器セット(飯盒、食器、箸、スプーン、まな板、包丁、しゃもじ、
	おたま ※1セット8名分まで対応、グループごとに貸出)
	鍋、ボール、ざる、ピーラー、鉄板
	火ばさみ、十能、ほうき
	※上記の食器・炊事用具以外の貸出については、お問い合わせください。
	炊事用薪(有料:1袋550円)

※食堂へ注文する野外炊事のメニュー・料金については、「利用の手引き」 P.7 参照

6 活動の流れ

活動の流れ	利 用 団 体	青少年の家職員
食材の注文	・「食事数申込書」を提出する	
	・玄関前に集合→野外食事棟へ移動	・炊事の準備について説明
	(グループごとにテーブルにつく)	する
	・炊事の準備についての説明を聞く	・食材は食堂職員が渡す
炊事準備	・食材を受け取る(食堂裏入口)	・薪運びの指示、食器セッ
	・炊事用薪を準備する(多目的グラウンドコンテナ)	ト、炊事用具の貸出
	・食器セット、炊事用具を準備する(器具庫)	
	※食器セットの内容(個数)の確認	

説明	・調理のしかた、かまどの使い方、後片づけの	・進め方について説明する
	しかた等の説明を聞く	
炊事	・食器、炊事用具等を洗う	
	・食材の準備(切る)をする	
	・火をおこす	
	・調理する	
	・盛り付ける	
食 事	・食事棟に移動し、作った料理を食べる	
後片付け	・食器、炊事用具等を洗う	・食器点検を行う
	・かまどの灰を処理する	(洗い方、個数等)
	・食事棟、炊事棟を掃除する	・消火を確認する
	・食器点検を受け、食器セット、炊事用具を	・清掃状況を確認する
	返却する(器具庫)	
	・ゴミを処理する	

7 留意事項

- (1) 野外炊事は、雨天でも実施可能なプログラムのため、食堂に食材を注文する場合は、 必ず実施する。(食事棟・炊事棟とも屋根あり)
- (2) 手洗い、食材の水洗い等、衛生面に留意する。
- (3) 刃物や火の取り扱い等、安全面に留意する。
- (4)食材を受け取る際は、引率者が必ず立ち会い、注文した内容と合っているか確認する。 特に、食物アレルギーの方の食材については、確実に受け取る。
- (5)「食堂に注文した食材」と「団体で持ち込んだ食材」を混ぜて調理したり、食べたりすることは禁止とする。(食材を全て持ち込んだ場合の野外炊事は可能)
- (6) ゴミは、食材が入ってきたビニール袋または持参したゴミ袋に入れ、食堂脇のゴミ置き場の青ポリバケツへ捨てる。(食堂に食材を注文した場合は、ゴミ分別の必要なし) ※食材を持ち込みで野外炊事を行った場合のゴミは、持ち帰りとする。
- (7) かまどの灰や燃え残りの薪は、炊事棟脇の一輪車に集め、水をかけて消火した後、灰捨て場(多目的グラウンド脇)に捨てる。 ※引率者は、消火確認を確実に行う。
- (8) 冬期間の野外炊事はできません。詳しくはお問い合わせください。
- (9) 指導依頼をする場合でも、「調理のしかた」や「火のおこし方」等について可能な限り 事前研修をしてから野外炊事に臨む。
- (10)活動中に連絡をとりたい場合は、器具庫の内線電話(32番または33番)を使用し、 事務室に連絡する。
- (11) 食堂に野外炊事の食材を注文する場合は、事前に「食事数申込書」を提出する。



食器セット(1セット8名分)



炊事棟(かまど・流し)



食事棟